

一人ひとりが運動の楽しさを体得し、主体的に 運動に取り組む児童の育成をめざして

津久見市立津久見小学校

全校児童数	209名（男子97名 女子112名）		
全クラス数	10	教職員数	20名
体育専科教員訪問学校数			3校
訪問校	津久見市立 堅徳小学校・青江小学校 千怒小学校		
体育専科教員名		岩尾 恭輔	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ◆運動が好きな児童とそうでない児童の2極化
- ◆運動を主体的に行う態度の育成と運動の日常化

2 取組の計画

- ① 本務校においては、体育主任を含む体育推進部と連携し、1校1実践の充実と体力向上に向けた日常の体育授業実践に努める。
- ② 訪問校においては、津久見市内3小学校を巡回し、全学年の体育の授業に携わることで、各小学校の1実践へのアドバイスと日常の体育の授業実践を学級担任と連携して行う。

Do：実践内容

1 本務校での実践

(1) 授業実践の取組

本務校では、月曜日と水曜日の週2日、1年生から4年生までの授業を受け持ち、学級担任と連携した授業を展開した。児童の主体的な活動を目指した。

(2) 1校1実践の取組

- ① 授業の導入時に「5分間タイム」を設定し、年間計画に沿って低・中・高で各月ごとに取り組み、体力向上に向けた運動を継続する。
- ② 月に2回、体育委員会企画の「昼休みタイム」で、学年を越えて体を動かす場を設定する。
- ③ 5年生以上の25m泳げない児童を対象に、夏季休業中に5日間の水泳教室（「2525（ニコニコ）チャレンジ」）を開催し指導にあたる。

2 訪問校での実践

(1) 授業実践の取組

市内3小学校に訪問し、1年生から6年生までの全学年を担当した。初めての体育専科教員として、まずは自らの授業力の向上を目指すため、基本的にはT1を担当し、学級担任にはT2の役割を担ってもらった。

(2) 体育的行事への参画

訪問校の体育的行事を開催するにあたり、各学校の体育主任と実施内容を共有し、開催に向けての練習計画や授業の中での取り扱い等について、事前に話し合いを行うことができた。

●工夫したこと（&苦労した点）

- ① 研究主題にもあるように、一人ひとりの児童が運動の楽しさを体得し、主体的に運動に取り組むことができるように、チームやグループでの活動をメインに据え、自分たちで考え、話し合い、支え合える活動場面を多く設定するように努力してきた。
- ② 訪問校では比較的少人数（20名程度の）学級が多いことから、個々のめあてや願いに沿った練習の場を工夫し、ひとり一人が個々の頑張りや成果を発表できる場を多く設定してきた。
- ③ 週5日のうち、本務校に2日間、訪問校に3日間の勤務とあって、それぞれの学校の学級担任と落ち着いて打ち合わせをする時間が十分確保できなかった。事前の授業心得と役割分担がしっかりと確認できていれば、より効果的な指導・支援ができたと思う。

Check：取組の成果

- ① 本務校では、体育主任ならびに体育推進部のメンバーと連携して、本務校の体力向上の取組について情報共有したり、体育的行事の実施に向けて協議したりできたのでよかった。さらに、体育の授業実践のみならず、体育用具や体育環境の整備にも力を注ぐことができた。
- ② 訪問校ではすべての学年で授業を担当したので、全ての学級担任と体育指導の具体的な指導方法について授業を通して考えを共有し、実践できたことが大きい。

Action：今後の課題

- ① 年間の授業計画を年度始めにしっかりと打ち合わせする時間を確保することで、T1・T2の役割を明確にし、相互にサポートしながら授業を進めていくことが大切である。
- ② 今年度はT1ですべての授業を担当してきたので、次年度はT2としての授業参加も検討していきたい。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

児童の生活習慣をみると、タブレットやスマホを使用する時間がとても長く、不規則な生活になりがちな傾向にある。各小学校で授業実践を中心にした体力向上を目指すことで、児童自らの生活実態を見直し、健康な体づくりに向かう「ライフスタイル」の改善につながる。

○本務校での授業実践の様子

1. 低学年「水あそび」



2. グループワーク



3. ボール運動「キャッチバレーボール」

